



## 聖光学院 中学校高等学校

### 事例概要

#### 課題

- ・ 大学入試の変革に伴い重要になる英語のスピーキング教育の不足
- ・ 対応策としてオンライン英会話を導入するも、タブレットでは生徒の質疑反応に不十分

#### 解決策

- ・ 軽くて耐久性に優れ、安価な Chromebook を導入
- ・ キーボード一体型の Chromebook でライティングもバックアップ
- ・ ビデオ通話にはウェブベースの Google ハングアウトを利用
- ・ G Suite for Education の活用で英語力を身につける機会をさらに増加

#### 効果

- ・ 生徒の英語に対する学習意欲の向上
- ・ 外部試験においてリスニング力に成長が認められた
- ・ 海外インターン生の授業を英語で受講・発表するまでにレベルアップ
- ・ 英会話での導入をきっかけに学内の ICT 教育が軌道に
- ・ Google カレンダーや Google ドライブを活用して校務削減とペーパーレス化が促進

#### 聖光学院中学校・高等学校について

- ・ 設立:1958 年
- ・ 生徒数:1,374 人
- ・ クラス:中学校・高等学校(中高一貫校)
- ・ <http://www.seiko.ac.jp>

## Google for Education ツールが 英語のスピーキング教育を充実させる

### 背景

文部科学省の中央教育審議会で、「新しい時代にふさわしい高大接続の実現に向けた高等学校教育、大学教育、大学入学者選抜の一体的改革について（答申）」が取りまとめられました。そこでは、「グローバル化に対応したコミュニケーション力の育成・評価」が課題として掲げられ、英語を「聞く」「読む」だけでなく「話す」「書く」も含めた 4 技能を総合的に育成・評価することが重要とされました。進学校である聖光学院としては、大学入試における英語試験が 4 技能にシフトされることへの対応が求められています。

### 課題

#### 1 対 複数人の授業では発話機会に限られる

英会話の授業は、ネイティブの教員 1 名に対し、1 クラス約 45 名を半分に分け 1 対 22 ～ 23 名で実施。「それでも生徒一人ひとりの発話機会はどうしても限られてしまうため、スピーキング力を向上させることには課題を感じていました」と英語科教諭の佐藤貴明先生は言います。

そこで、導入までのスピードとコストの面からオンライン英会話に注目し、端末には「素早く簡便に使える」とタブレットを選択。大学入試でスピーキングが導入される年次に当たる中学 2 年生を対象に、2015 年度からオンライン英会話を受講させることを決定しました。

#### タブレットは受信専門の端末と痛感

「タブレットは、情報を受け取る上では非常に有効なツールですが、情報を発信したり、レポートを書いたりするのに不向きであることがわかりました。例えば単語がわからない時に先生とチャットでやり取りしたり、自分の考えをまとめる際にもキーボードがないと不便に感じる生徒が多かったです」と佐藤先生は言います。

タブレットにキーボードを外付けする案も検討されましたが、キーボードが外せる事から、破損・紛失・忘れ物といった懸念が拭えず、タブレットと同程度のコストと携帯性に、キーボードを併せ持つ端末を探す必要に迫られました。

### 解決策

#### 軽くて耐久性に優れつつもリーズナブルな キーボード一体型の Chromebook を導入

検討の結果、2016 年 4 月、中学 2 年生には 1 人 1 台、計 230 台の Chromebook を導入。中学 2 年生の生徒は、毎日 Chromebook を学校に持参しています。

導入後は、先生と生徒の 1 対 1 のオンライン英会話を週に 4 コマ実施。早朝や放課後の時間を利用して学校で 1 コマ 25 分を週 2 回、帰宅後の自宅で 1 コマ 15 分を週 2 回受講できるようにしています。夏休みの宿題では 1 コマ 15 分の授業を最低 20 コマ受講することを課しました。

#### Chromebook はオンライン英会話の端末として最適

#### Google ハングアウトで臨場感のある英会話学習が可能に

オンライン英会話の実施には Chromebook と Wi-fi アクセスポイントがあれば十分。ウェブベースの Google ハングアウトを利用するので、ソフトウェアのインストールは不要です。特別な設備環境も必要ありません。ひとつの教室に集合して決まった時間に一斉に英会話を行うことも、自宅学習も思いのまま。このように、どこでも英会話のレッスンができる教育環境を構築して生徒の意欲に添えています。

---

## G Suite for Education

教室でのコラボレーションを実現する無料の生産性ツール。広告はいっさい表示されず、データはお客様だけのものです。

## Chromebooks

簡単に管理ができ、すぐに教室を変革できる端末。伝統的な学習環境での利用から、アクティブ・ラーニング形式での授業にまでご活用頂けます。

---

## ポイント

Chromebook を選択した背景には、2014 年に全教員に対してメール環境の改善を主目的に G Suite for Education を導入し、2015 年 11 月には全生徒にアカウントを発行していたことも挙げられます。

「教員の中には、課題の作成から回収、フィードバックまで効率的に行える『Google Classroom』を活用する人が増えています。また、管理職が率先して Google ドライブ や Google カレンダーを活用し、熱心にペーパーレス化を推進しているため、教員のみならず、生徒や保護者の間でも活用が広がっています。学校として気になるセキュリティについても、Chromebook は管理者が一元的に管理できる点において非常に優れています。今後 G Suite を使用する機会がさらに増えるので、親和性が高い Chromebook は本校にとって最適な選択であったと言えると思います」



---

**“Chromebook の利便性によって、学校内におけるオンライン英会話が可能となり生徒の学習意欲向上にもつながることが分かりました。このことは、本校における ICT 教育前進のきっかけになり得るでしょう”**

聖光学院中学校・高等学校 英語科教諭  
佐藤貴明氏

---

## 効果

オンライン英会話を導入して 1 年半経過した段階で、外部の試験においてリスニング力などの向上が認められました。これからさらに大きな成果が期待されています。

## 先進的な教育に ICT 環境の充実は不可欠

「この取り組みは、学校としてはまだ試験的な段階にあり、学校全体に本格的に導入されたものではありません。正式なカリキュラムに落とし込んで学業成績の一項目にしないと、真に定着するとはいえないと思います。早くそうできるように取り組んでいきたいと思っています」と言う佐藤先生は、自身が受け持つ高校 1 年生の授業に、海外からインターン生を迎えて配置。生徒が学校紹介や社会的トピックを研究して Google スライド でまとめ、英語でプレゼンする機会を設けるなどしてスピーキング力を身につけられるように努めています。またプレゼンの準備段階では、生徒に英語で資料を検索するよう指導しており、それが英語情報のインプットにもつながっているといいます。

同様の校長は Chromebook を高く評価し、2016 年秋には中学 3 年生への導入も決定。スピーキング力向上のためだけでなく、学習改革のために Chromebook は有効活用できるツールです。佐藤先生は次のように説明します。

「今後、英語教育において 4 技能をバランスよく伸ばしていくには ICT 環境の充実が不可欠です。Chromebook の利便性によって学校内におけるオンライン英会話が可能となり、生徒の学習意欲にもつながることが分かりました。このことは、本校における ICT 教育前進のきっかけになり得るでしょう」

## お問い合わせ

G Suite for Education の詳細については <https://www.google.co.jp/intl/ja/edu/products/productivity-tools> をご覧ください。

© Copyright 2016 Google

Google は、Google Inc. の商標です。その他すべての社名および製品名は、それぞれ該当する企業の商標である可能性があります。

© Copyright 2016 Google is a trademark of Google Inc. All other company and names may be trademarks of the respective companies with which they are associated. GECS 03/15/12